

英語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
関心のある事柄や自分の考え等を相手にどのように伝えればよいかの知識を身に付け、簡単な語句や文を用いて伝えることができる	日常的な話題や社会的な話題に関して、自分の考えや気持ちを整理し、簡単な語句や文を用いて表現することができる

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	ア イ 自己表現に必要な語句や文法等を覚えることは概ねできているが、それらを活用して文章で表現することに課題が見られる。また、一問一答形式であれば答えることは概ねできているが、2文以上で答えることには課題がある。	ア 帯活動でチャンツや質問リストを使用することで、コミュニケーションに必要な型を身に付ける活動を行っている。 イ 教科書を使用して基本表現を覚えるとともに、既習事項を活用して表現する活動を増やしていく。	9月~2月	
第2学年	ア イ 既習語句を覚えることは概ねできるが、自分自身の考えなどを、まとまりのある文章で表現することに課題が見られる。また、正しい英語の発音で発表することも課題である。	ア チャンツ・教科書本文・単語を聞く→読む→書く活動を通して、基本表現の習得を目指す。また、ペアでの会話活動を通して、自分の意見を相手に伝える帯活動を実施している。 イ 実践的な場面設定を行い、基本表現に加えて、自身の意見を伝える活動を実践する。	9月~2月	
第3学年	ア イ 既習の表現を用いて、伝えたいことを概ね伝えることができる。単調な表現が目立つことが課題である。 また、自分自身の考えや感じていることをまとまりのある文で表現する力を身に付けることが課題である。	ア チャンツや対話的なパターンプラクティス、ペアでの新出単語の確認といった帯活動を行うことで、多様な表現のインプットへつなげるとともに、学習の振り返りにより、情報を整理する。 イ 会話の状況設定をより明確にし、自分自身の考えや感じていることをより表現しやすいように工夫をしている。また、1つの質問に多文で考える機会を設けるなど、表現に幅をもたせることができるようにする。	9月~2月	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
<p>[第1学年]【重点:協働】デジタル教科書を使用した音読練習や単語の発音練習等を行う。</p> <p>[第2学年]【重点:個人】デジタル教科書を活用し単語や発音の練習、内容理解を行う。 プレゼンテーションの準備やパフォーマンステストを実施する。</p> <p>[第3学年]【重点:協働】電子黒板を活用し単語の発音や教科書の内容理解を行う。 音読の録音を活用したパフォーマンステストを実施する。</p>	<p>[第1学年]授業の流れと目標を提示する。単元の始まりに大まかな流れや目標を確認し、授業の終わりに振り返りを行う。</p> <p>[第2学年]本時の流れと目標を提示し、見通しのある単元計画を立てる。</p> <p>[第3学年]単元の始まりや活動、発表への取り組みの前に目標を確認し、目標を明らかにする。授業終了時・単元終了時に振り返りを行う。</p>